

栄光の架け橋 第33回全十勝中学校スピードスケート新人戦大会 新人戦「優勝」2連覇～少数精鋭～



2月17日(土) 明治北海道十勝オーバルにて「全十勝中学校スピードスケート新人戦大会」が開催されました。十勝で開催される今シーズン最後の公式戦。本校から4名の子どもが参加しました。今シーズンの集大成並びに次年度に向けての滑りとなりました。

- 1年生島田さんは1000m～1分26秒49(第4位)、1500m～2分13秒55(第4位)
- 2年生長田さんは1500m～2分09秒56(7位)、3000m～4分40秒70(第8位)
- 2年生黒坂さんは1500m～2分11秒20(第2位)、3000m～4分43秒47(第2位)
- 2年生鳥毛さんは1000m～1分37秒18(第15位)、3000m～5分08秒02(第12位)

個人成績は以上の通りです。個人の成績で加点される「学校対抗」において、女子の総合優勝となり、次年度に続いての2連覇となりました。今シーズン、選手の皆さん、本当にお疲れ様でした。そして、ご家族の皆様、お子さんの送迎や様々な支え、ご苦労様でした。

全十勝中学生学年別卓球大会～本年度最後の大会～

2月12日(月・祝) によつ葉アリーナ十勝にて「全十勝中学生学年別卓球大会」が開催されました。

本校から7名の子どもが参加しました。結果は、以下の通りです。日々の練習で取り組んできたことを確認し、次年度の大会につながる貴重な経験となりました。

- 【2年】 大坂さん(2回戦進出)、村田さん(2回戦進出)、小森さん(2回戦進出)、佐藤さん(3回戦進出)
- 【1年】 佐々木さん(2回戦進出)、豊田さん(3回戦進出)、嶋崎さん(1回戦出場)

幕別町文化賞・スポーツ賞等、善行賞・標語～表彰

3月20日(水)に幕別町百年記念ホールにて「幕別町文化賞・スポーツ賞等」及び「善行賞・標語」表彰式が開催されました。表彰者・団体は以下の通りです。日頃の各種活動・取組に対して、表彰いただき感謝すると共に、ご家族並びにお力添えいただきました皆様に感謝申し上げます。

- 村田英孝さん(3年) 標語最優秀賞「強がらず 相談しても いいんだよ」(いじめ防止の部 標語)
- 忠類中学校1年 善行賞「5人会との協働によるナウマン象のマフラーかけ」
- 黒坂理央さん(2年) スポーツ奨励賞(全国スケート3000m5位、全十勝新人陸上女子800m第2位)
- 忠類中学校スピードスケート部(全道スケート女子ルー2000m第3位、全十勝学校対抗 女子総合優勝)

4月行事予定

- 3日(水) 学級編成発表 10時～
- 8日(月) 入学式(着任式・始業式)
- 9日(火) 自転車点検 街頭指導①
- 10日(水) 交通安全街頭啓発 街頭指導②
- 11日(木) 身体測定 街頭指導③
- 16日(火) 町教育振興会総会
- 17日(水) 全国学力学習状況調査①
- 18日(木) 全国学力学習状況調査②
- 19日(金) 第1回授業参観日 PTA総会

- 19日(金) まくべつ教育の日
- 22日(月) 生徒会常任委員会 保護者面談①
- 23日(火) 保護者面談②
- 25日(木) 保護者面談③
- 26日(金) 生徒総会 保護者面談④
- 30日(火) 保護者面談⑤ 町P連総会



しばざくら

- 【教育目標】 「心豊かに たくましく 生きぬく生徒」
- 自ら学ぶ生徒
 - 人を思いやる生徒
 - チャレンジする生徒
 - ふるさとを愛する生徒



「3年生を送る会」
～在校生からお別れの言葉～

学校教育目標「心豊かに たくましく **生きぬく**」



校長 白井 将之



令和5年度 第77回 忠類中学校卒業証書授与式

九 祝文披露
十 記念合唱
十一 会歌合唱
十二 別れの言葉
十三 別れの言葉
十四 卒業生退場

本日をもってご卒業をされます卒業生の皆様、改めて、ご卒業、誠におめでとうございます。

また、お子様の限りない成長を願い、常に深い愛情を注ぎ、今日まで慈しみ育ててきたご両親をはじめご家族の皆様方、お子様のご卒業、心よりお慶び申し上げます。

さて、卒業生の皆さんに、卒業するにあたり二つお話をしたいと思います。

一つ目は、学校目標「心豊かにたくましく生きぬく」の「生きぬく」についてです。昨年度、皆さんにお話はしましたが、改めて、お伝えさせて下さい。私自身は、忠類中学校の学校目標の「生きぬく」の言葉が好きです。この言葉は、真に、これからの予測困難な時代において、極めて重要な言葉だと思っているからです。一般的には「生きる」という表現を使うことが多いです。しかしながら、本校の学校目標は「生きる」ではなく「生きぬく」です。「生きぬく」には、どんな困難や課題があったとしても、「たくましく」「強く」「何が何でも」といった人間の強い意志があります。それは、分村や町村合併といったこの忠類地域の歴史的背景と重なり、これからの時代を皆さんが「生きぬいてほしい」といった地域住民の願いであるようにも感じられるのです。卒業生の皆さんは、ふるさと学習等を通じて培ったコミュニケーション能力、課題を探求する力、他者と協働して物事を進める力。更には、給食での食べっぷりなど、この3年間で確実にたくましく成長されました。是非、本校の学校目標「生きぬく」の言葉の通り、力強く次のステージでも自分に自信をもって頑張してほしいと思います。

二つ目の話です。今回の卒業式の座席配置についてです。より良い卒業式にしたいとの考えから、何度も校長室に足を運び、皆さんの考えを伝えてくれました。同時に、学校としての考えもお伝えしました。その対話のやり取りの中で、個々の価値観や考え方に違いがあること。互いを尊重し認めることの大切さ。新たなものを創造していくことがいかに辛く・苦しく、また、楽しいものであるかということを実感したのではないのでしょうか。しかしながら、そういった取組や時間がこれから生きていく上では絶対に必要となってきます。今後、高校に入学し、社会に出ていくと、自分の納得のいかないことや上手くないことも多々出てきます。そんな時は、流されるだけではなく、自分の価値観やものの見方・考え方に疑いをもちながら、相手や周囲を広い視野や裏側から見渡し受け止めること。そして、生涯、学び続ける姿勢を忘れず、自分の価値観を広げながら、新たな道を他者と協力しながら、切り拓いていくこと。チャレンジし続けてほしいと願っています。

今、お伝えしたことは、ちゅうるい学園目標「自ら学ぶ人」「思いやりのある人」「チャレンジする人」そのものです。そして、これまで育てていただいたご家族や友人、地域の皆さんへの感謝を忘れることなく、「ふるさとを愛する人」であり続けてほしいと思います。

【令和5年度忠類中学校卒業証書授与式 式辞(一部割愛)】

卒業生9名。たくましく成長し、それぞれの道へ歩み出します！

～全員が第1志望の高校に進学することができました～



十勝の中学校では毎年のことですが、3月15日に卒業式が行われ、3年生を送り出します。

子どもたちが1日の生活を過ごす時間で、家族に次いで多い時間が「学校」です。特に、中学校3年間は、心も体もめざましく成長する時期であり、そのかけがえのない貴重な時間に携わらせていただける中学校の教職員は大きな責任があると同時に、大変やりがいがあり、幸せな役割であると実感しております。

入学当初は児童の面影が残っており、可愛らしい姿から、中学校生活での教科担任制（様々な大人との出会い）や部活動、自律して生活する機会も増え、様々な経験や学び・気づきの中から、少しずつ遅くなっていきます。自己選択・自己判断の過程の中で、自分の進路を自分で切り拓き、乗り越えていきます。

卒業証書を渡すこと＝義務教育の修了を意味しており、お祝いの気持ちと同時に、学校教育が子どもたちにとって、これからの社会を「生きぬいていく」上で、必要な力を育むことができたのだろうか？もっとできることがあったのではないかといいた回顧の念を私自身はもってしまいます。とは言え、教職員は子どもたちの成長に誠心誠意をもって全力で携わっています。昨今の働き方改革の中においても、勤務時間を気にしながらも、休日や放課後、状況に応じては自宅などで、時間を割いて、子どもの教育に携わる業務を行っています。

一方で、社会情勢によって、社会に求められる資質・能力は変遷しています。

戦後や高度成長期における教育は、約束やルール（校則）・画一的で全体指導や一斉授業、規律がある社会の中で、大量生産に従事する根気強く同じ作業を続けられる忍耐力が求められる等、他と異なることが非であるような風潮があったのも事実であり、集団生活や規律が重視されていたことは否めない状況でした。学校教育も同様に、学校の枠からはみ出る生徒は指導の対象となり、それに反発する生徒が校内暴力や様々な生徒指導案件へと派生するなどといった歴史を辿ってきたように思います。

しかしながら、現在は多様性（ダイバーシティ）の時代に移りかわり、ソサイエティ5.0やAI等の急激な発展により、予測困難な時代となり、他と異なることに意味や価値があり、これまで当たり前だったことに対して、いかに付加価値を付けるか等、明らかに一昔前の社会情勢とは変わってきています。それに応じて、義務教育＝学校教育が果たすべき役割や子どもたちに身につける資質・能力も当然、変化をしてきています。これまでの学校教育が果たしてきた役割を全面否定する意味ではなく、アンラウン（一度フラットな状況で必要なことを再確認し学び直すこと）にし、時代の要請やこれからの社会に生きていく上で必要な資質・能力を踏まえた上で、時代の要請に応じた、学びを展開するための学校改善・授業改善に期する必要があります。

国としての教育の機会均等としての学習指導要領と人的配置・施設環境とは別に、具体としての教育内容や教育活動は設置されている地域の特色や実情、地域住民の民意が反映されるべきものです。子どもの教育は、学校のみならず、地域・保護者と共に手を携え、連携・協働していく時代です。（社会に開かれた教育課程の実現）

そういった意味では、幕別町で推進している学園構想による小中一貫コミュニティ・スクールは、時代の要請に応える教育施策そのものです。本学園では、小中9年間で総合的な学習を柱としながら、地域の教育資源や人材を活用した学びを展開しており、地域の皆様と一緒に子どもたちを育てていただいています。義務教育を終え、忠類を巣立っていく子どもたちが、自立した一人の人間として、人格の完成を目指し、平和で民主的な社会の形成者となり、心身ともに健康で豊かな人生を歩んでほしいと願っています。（ウェルビーイングの実現）

今年卒業される9名の皆さんは、本当に個性豊かで、コミュニケーション能力も高く、物事を創造的に取り組む力もありました。学校としては、多くのことを子どもたちから学ばさせていただきました。今後の皆さんの活躍を心より、期待しています。ご卒業、おめでとうございます。

卒業生へ～杉坂達男 同窓会長よりメッセージへ～



卒業式を控えた3月11日(月)に忠類中学校同窓会 杉坂達男 会長にご来校いただき、入会式並びに卒業にあたっての激励の言葉をいただきました。

本年度で77年を迎える本校の歴史や忠類への思いをご教授いただきました。

現在の校舎が4回建替が行われたこと。以前は、「銀月湖」と言われる沼が現在の地にあり、ボートが浮かび、生徒の憩いの場であったこと。昭和5年の鉄道の開通以降、人口が増えていったこと等…。本当に貴重なお話でした。その中で、忠類が自慢できることを3つお話されました。

①忠類から見える「日高山脈の眺め」 ②円山展望台 ③忠類坂(白銀台の灯り)

ふるさとから見える山並みや景色、光は人に元気を与えてくれること。忠類を離れて、辛く・苦しい時は、この光景を思い出してほしいと話されました。

また、お祝いの言葉として、「9年間、よく頑張られました。お疲れ様でした。幼い頃より一緒に過ごしてきた友達と4月から別れますが、また、戻ってきてほしい」。そして、「ご両親やご家族、周囲に対して、これからも感謝の気持ちを忘れないでほしい」とお伝えいただきました。

最後には、生徒へ3つのお願いがありました。

1つ目は～「心配り」 2つ目は～「気遣い」 3つ目は～「思いやり」

「自分だけのことを考えるのではなく、相手や周りのことを考える気持ちをこれからも大切にして下さい」と話されました。お忙しい中、足をお運びいただき感謝申し上げます。有り難うございました。

転出者挨拶～「お世話になりました」

3年間、忠類で子どもの教育並びに地域の皆様とご一緒させていただいた時間は本当に幸せでした。この地域は教育的資源が豊富で、何よりも住民の皆様が温かく、素晴らしい環境です。ここで、学ばさせていただきました経験を次の赴任地でも生かして、人づくり・つながりづくり・地域づくりに邁進したいと思います。大変、お世話になりました。有り難うございました。【白井 将之 校長(在職3年)】

この度、故郷である釧路方面の学校へと転勤することとなりました。思えば、教師となって初めて作成した郵送文書は駒島小学校宛のものでした。また、20代の頃に広尾への出張で前泊させてもらったのは忠類村でした。このように教職のスタートを切った思い出深い地働けたことを嬉しく思います。また、忠類中学校の生徒の皆さんのご活躍が聞けたら、大変嬉しく思います。【奥村 康仁 教諭(在職3年)】

新採用からここ忠類に勤めさせていただき、3月末をもって異動することとなりました。4年間の多くの時間もコロナ禍で過ごすこととなってしまいましたが、素直な子どもたちや温かい保護者、協力的な地域の皆様とご一緒することができ、初任が忠類で良かったと心から感じております。この4年間で経験させていただいたものを生かし、次の地でも頑張りたいと思います。本当にお世話になりました。【菅原 一成 事務(在職4年)】